

これは平太とよ

煮物の中にエダ豆の皮ごと入っている

思ゆす ぼほそむ

エダ豆 皮ごと 煮物の皮

人ほ 千イ千とちかちかう

つと 菊がつく

いつも便つていゝ 一サミ 林あいてる

はいし白の

茶をとるの花 まどしよ

そのハサミはち木のうしろ

エツ 皮むるの

セニテイ はさみ 下駄箱にきくの

ちんた とりうかおでいつも便つハサミ

こちうへ 掃つて来た

汗で朝とりかえていゝ

同じがのの×の下の着るのんでいゝ

あし こつちの着かいいわよ

ほう こんろに かわうかい

せう かくの着 それを着る

これはあいらとアウリル 冬あきの

昔々 ありい

♪ だのゆと たすかい

知らぬては 今つとく 出果るの

彼女は六十才の女にだ

あ子り 考えす 三才つて ありえれい

か 見えよ

年よりだ かねう 命の

二才て いけだろろホ ちびいてく

人け年とよ

年とろ 正婚 何れ まぶく かましれ 存り

2024  
9/27